

受付番号

58

許可番号

大歯医倫 第 111085 号

研究課題名

新規イオン放出性従来型ガラスイオノマーセメントの窩壁適合性に関する研究

研究責任者

保尾 謙三

申請者

保尾 謙三

研究終了日

2021 年 3 月 31 日

所属

歯科保存学講座

所属

歯科保存学講座

職名

講師

職名

講師

申請の概要

Minimal Intervention が提唱され、最近では口腔内細菌叢の改善やう窩の形成されていない初期う蝕に対して再石灰化療法を試みるなど、発症や進行の抑制を含めた患者・患歯管理型治療が積極的に行われており、高齢者の残存歯数は増加傾向にある。しかし、高齢者では歯肉退縮に伴う歯根象牙質の露出が多数みられ、根面う蝕が増加傾向にあり、その治療法として、フッ素徐放性や歯質接着性に優れたガラスイオノマーセメント修復が推奨されている。

近年、フッ素以外の各種イオン放出性をもたせた従来型ガラスイオノマーセメントが開発され、そのバイオアクティブ作用が注目されているが、その窩壁適合性・辺縁封鎖性についての報告はない。本研究は、フッ素徐放性の従来型とイオン放出性の新規従来型ガラスイオノマーセメントの窩壁適合性・辺縁封鎖性について比較・検討することで、根面齶蝕に対する修復処置としての有効性を判断することを目的とする。本研究により、フッ素以外の各種イオン放出性従来型ガラスイオノマーセメントを用いたガラスイオノマーセメント修復の有効性が明らかになれば、根面齶蝕に対するより適切な治療法の確立が期待される。